

【緑地を楽しむ本】

『食べる』

月刊たくさんのふしぎ 2024年1月号 第466号

藤原辰史・文 スケラッコ・絵



「夜の7時、窓の外はすっかり暗くなった。あなたはいま、椅子にすわってごはんを食べている。…(中略)…あなたは、家の中でずかにごはんを食べている。」こんな文章で始まり、「でも」と続いてゆきます。

ここから筆者の語る「食べる」という、とっくにぎやかな「世界」が広がっていきます。まずは五感を使って楽しむ、おいしさ、美しさ、歯ごたえ。そしてその食べ物に

まつわる思い出、さらに生産者へ、そしてその歴史へと。体内に入れば、微生物たちが大活躍です。

「あなたのからだのなかを、毎日毎日、水と塩と食べものになった生きものが通りぬけている。・・・わたしたちのからだを、地球がゆっくりと通りぬけていくのだ。」

「食べる」喜び、楽しさ、尊さに気づかせてくれる本です。

(遠藤)